

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平11-92335

(43) 公開日 平成11年(1999) 4月6日

(51) Int.Cl. ⁶	識別記号	F I		
A 6 1 K	7/02	A 6 1 K	7/02	Z
	7/00		7/00	J
				L
// A 6 1 K	7/025		7/025	
	7/032		7/032	
審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 7 頁)				
(21) 出願番号	特願平9-276561	(71) 出願人	000145862 株式会社コーセー 東京都中央区日本橋3丁目6番2号	
(22) 出願日	平成9年(1997) 9月24日	(72) 発明者	中林 治郎 東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー 一研究所内	
		(72) 発明者	石原 由佳子 東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー 一研究所内	

(54) 【発明の名称】 油性固形化粧料

(57) 【要約】

【課題】使用時に水々しい使用感が得られ、うるおい感の持続に優れた油性固形化粧料に関する。

【解決手段】部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合体に水性成分を保持させ、特定量の油性成分を配合することにより使用時に水々しい使用感が得られ、うるおい感の持続性に優れた油性固形化粧料を提供するものである。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 次の成分(a)～(c)；

(a) 部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合体0.01～10重量%

(b) 固体油及び／又は半固体油を全油性成分中に5～60重量%含有する油性成分40～90重量%

(c) 水性成分5～50重量%

を含有することを特徴とする油性固形化粧品。

【請求項2】 更に、(d)成分として粉体を含有することを特徴とする請求項1記載の油性固形化粧品。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、使用時に水々しい使用感が得られ、うるおい感の持続に優れた油性固形化粧品に関する。

【0002】

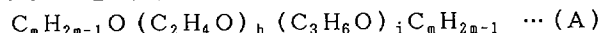
【従来の技術】従来、油性固形化粧品は、油性成分及び粉体成分を中心に構成されており、化粧品としての外観、使用性や使用感を得るために、種々の検討がなされている。油性固形化粧品は、油性成分を配合しているため、しっとり感等は得られるが、水々しい使用感を得られなかった。また、水及びコレステリルヒドロキシ脂肪酸を配合し発汗を防止する技術が知られているが(特公平4-40324号公報)、多量の水を配合すると、系の安定性が悪くなるという欠点があった。

【0003】

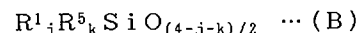
【発明が解決しようとする課題】多量の水を配合する技術として、ペースト状シリコン組成物を用いて、油性メークアップ化粧品に水を配合するもの(特開平5-139929号公報)があるが、油を多量に配合すると油っぽさがでて使用感が悪くなるという欠点があった。そこで、水々しい使用感が得られ、うるおい感の持続性に優れた油性固形化粧品の開発が望まれていた。

【0004】

【課題を解決するための手段】本発明者らは、上記実情に鑑み、鋭意検討の結果、部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合体に水性成分を保持させ、特定量の油性成分を配合することにより使用時に水々しい使用感が得られ、うるおい感の持続性に優れた油性固



(式中、hは2～200の整数、iは0～200の整数、h+iは3～200の整数、mは2～6をそれぞれ示す)で表わされるポリオキシアルキレン及び／又は一般式(B)

(式中、R¹は前記と同じ、R⁵は末端に脂肪族不飽和基を有する炭素数2～10の1価炭化水素基、jは1.0 ≤ j ≤ 3.0、kは0.001 ≤ k ≤ 1.5をそれぞれ示す)で表わされるオルガノポリシロキサンとの組合せにおいて、上記一般式(1)及び／又は一般式(A)で

形化粧品が得られることを見出し本発明に至った。

【0005】すなわち、本発明は次の(a)～(c)成分

(a) 部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合体0.01～10重量%(以下、単に「%」で示す。)

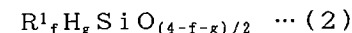
(b) 固体油及び／又は半固体油を全油性成分中に5～60%含有する油性成分40～90%

(c) 水性成分5～50%

を含有することを特徴とする油性固形化粧料を提供するものである。

【0006】

【発明の実施の形態】以下、本発明を詳細に説明する。本発明に使用される(a)成分である部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合体とは、オルガノハイドロジェンポリシロキサンと脂肪族不飽和基含有化合物とを付加重合させたもので、特開平4-272932号公報、特開平5-140320号公報等に記載されているものが例示される。部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合体は、下記一般式(1)

$$R^1_a R^2_b H_c SiO_{(4-a-b-c)/2} \cdots (1)$$
(式中、R¹は同種又は異種の炭素数1～18の非置換、又は置換のアルキル基、アリール基、アラルキル基又はハロゲン化炭化水素基、R²は一般式C_nH_{2n}O(C₂H₄O)_d(C₃H₆O)_eR³〔ここでR³は水素原子又は炭素数1～10の飽和脂肪族炭化水素基もしくは-(CO)-R⁴(R⁴は炭素数1～5の飽和脂肪族炭化水素基)で示される基、dは2～200の整数、eは0～200の整数、d+eは3～200の整数、nは2～6をそれぞれ示す〕で示されるポリオキシアルキレン基、aは1.0 ≤ a ≤ 2.5、bは0.001 ≤ b ≤ 1.0、cは0.001 ≤ c ≤ 1.0をそれぞれ示す〕で表わされるオルガノハイドロジェンポリシロキサン及び／又は一般式(2)(式中、R¹は上記と同じ、fは1.0 ≤ f ≤ 3.0、gは0.001 ≤ g ≤ 1.5をそれぞれ示す)で表わされるオルガノハイドロジェンポリシロキサンと一般式(A)

表わされる成分を必須成分とする重合体である。

【0007】部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合体は、本発明の油性固形化粧品中に0.01～10%の範囲で配合され、好ましくは、0.1～7%である。配合量が0.01%未満では、水系成分の配合量が制限され、水々しい使用感及びうるおい感の持続に優れた油性固形化粧料を提供する事ができない。また、油性固形化粧品に10%を超えて配合すると使用感が重くなるため好ましくない。また、これらの部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合体

は必要に応じて1種又は2種以上用いることができる。

【0008】本発明に使用される(b)成分である油性成分の固体油としては、通常化粧品原料として許容される融点40℃以上の固体油であれば特に限定されず、炭化水素、ロウ、硬化油、高級脂肪酸、高級アルコール等が使用できる。具体的には、例えば固体パラフィンワックス、セレスインワックス、マイクロクリスタリンワックス、カルナウバワックス、キャンデリラワックス、ミツロウ、モクロウ、ゲイロウ、ポリエチレンワックス、硬化ヒマシ油、ロジン酸ペンタエリトリットエステル、ステアリン酸、ラウリン酸、ミリスチン酸、ベヘニン酸、セチルアルコール、ステアリルアルコール、ラウリルアルコールなどが挙げられる。

【0009】半固体油としては、通常化粧品原料として許容される25℃でペースト状の半固体油であれば特に限定されず、炭化水素、植物油、動物油、高級脂肪酸エステル、架橋型シリコン等が使用できる。具体的には、ワセリン、ジペンタエリトリット脂肪酸エステル、ラノリン、コレステロール脂肪酸エステル、N-ラウロイル-L-グルタミン酸ジ(コレステリル・ベヘニル・オクチルドデシル)、架橋型メチルポリシロキサン、架橋型メチルフェニルポリシロキサン、などが挙げられる。

【0010】油性成分として前記固体油及び半固体油のほかに、化粧品一般に使用される液体油、揮発性油等が使用できる。動物油、植物油、鉱物油、合成油を問わず、炭化水素類、油脂類、ロウ類、エステル類、脂肪酸類、高級アルコール類、シリコン油類、フッ素系油、親油性界面活性剤等が挙げられる。具体的には、流動パラフィン、スクワラン、ポリブテン、ワセリン、オリーブ油、ヒマシ油、ホホバ油、マカデミアンナッツ油、液状ラノリン、ミリスチン酸イソプロピル、バルミチン酸イソプロピル、2-エチルヘキサン酸セチル、ミリスチン酸オクチルドデシル、トリオクタン酸グリセリル、ポリイソステアリン酸ジグリセリル、イソステアリン酸、オレイン酸、イソステアリルアルコール、オレイルアルコール、ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、メチルヒドロジェンポリシロキサン、メチルシクロポリシロキサン、パーフルオロオクタン、パーフルオロデカン、グリセリンモノステアレート、ソルビタントリスステアレート等が挙げられる。

【0011】本発明に使用される油性成分は、本発明の油性固形化粧品中に40～90%の範囲で配合され、好ましくは、40～85%である。配合量が40%未満では、油性固形化粧品として使用性を満足し、且つ形状を保持することは困難あり、90%を超えると、水々しい使用感が得られにくくなる。更に、固体油及び／又は半固体油の配合量は、油性成分中の5～60%の範囲で配合され、好ましくは、5～50%である。配合量が5%未満では、油性固形化粧品として形状を保持することが

困難あり、60%を超えると、油性固形化粧料の使用性が悪くなる。これらの油性成分は、必要に応じて、固体油又は半固体油の1種又は2種以上、それ以外の油性成分の1種又は2種以上を用いることができる。

【0012】本発明に使用される(c)成分である水性成分とは、水に可溶性成分であれば何れでもよく、例えば、プロピレングリコール・1, 3-ブチレングリコール・ジプロピレングリコール・ポリエチレングリコール等のグリコール類、グリセリン・ジグリセリン・ポリグリセリン等のグリセロール類、ソルビトール・マルチトール・ショ糖・でんぷん糖・ラクチトール等の糖類、グアーガム・コンドロイチン硫酸ナトリウム・ヒアルロン酸ナトリウム・アラビアガム・アルギン酸ナトリウム・カラギーナン・メチルセルロース・ヒドロキシエチルセルロース・カルボキシメチルセルロース・カルボキシビニルポリマー・ポリビニルアルコール・ポリビニルピロリドン・アルキル化カルボキシビニルポリマー・ポリアクリル酸ナトリウム等の水溶性高分子、塩化ナトリウム・塩化マグネシウム・乳酸ナトリウム等の塩類、アロエベラ・ウィッチヘーゼル・ハマメリス・キューリ・レモン・ラベンダー・ローズ等の植物抽出液等及び水が挙げられ、必要に応じて、これらの1種又は2種以上を使用することができる。

【0013】発明に使用される水性成分は、本発明の油性固形化粧品中に、5～50%の範囲で配合され、好ましくは、5～45%である。配合量が5%未満では、水々しい使用感を得ることが困難であり、50%を超えると、油性固形化粧料の形状を安定に保持することが困難となる。又、水性成分中に水として5～100%含有することが好ましい。

【0014】また、必要に応じて成分(d)粉体を配合することも可能であり、粉体は通常化粧品に配合される粉体であれば何れでもよく、形状も球状、板状、針状等特に限定することなく配合できる。無機粉体としてはタルク、カオリン、合成マイカ、炭酸マグネシウム、炭酸カルシウム、ケイ酸アルミニウム、ケイ酸マグネシウム、ケイ酸アルミニウムマグネシウム、無水ケイ酸、硫酸バリウム、ベントナイト、スメクタイト、酸化チタン、酸化亜鉛、酸化アルミニウム、ベンガラ、黄酸化鉄、黒酸化鉄、一酸化チタン、酸化クロム、コンジョウ、群青、酸化鉄雲母、酸化鉄雲母チタン、雲母チタン、オキシ塩化ビスマス等が挙げられる。有機粉体としては、タール系色素、ナイロン粉末、ポリエチレン粉末、シリコン粉末、メチルメタアクリレート、ポリテトラフルオロエチレンパウダー、ウールパウダー、シルクパウダー、結晶セルロース、チッチャ素等が挙げられ、必要に応じて、1種又は2種以上を使用することができ、更に、複合化して使用することができる。尚、これらの化粧用粉体は、フッ素化合物、シリコン系油剤、金属石鹸、ロウ、油脂、炭化水素等を用いて表面処

理を施したものがより好ましく用いられ、例えば、フッ素化合物としてはパーフルオロアルキルシラン、パーフルオロアルキルリン酸エステルジエタノールアミン塩、パーフルオロポリエーテル（誘導体）等が挙げられ、シリコン系油剤としてはメチルヒドロジェンポリシロキサン、メチルポリシロキサン等が挙げられる。これらの処理は単独で、又は2種以上の処理剤を組み合わせ使用される。

【0015】その他、効果を妨げない範囲で通常化粧品に用いられている成分である界面活性剤、紫外線吸収剤、保湿剤、酸化防止剤、美容成分、防腐剤、香料などを配合することができる。界面活性剤としては、例えば、非イオン界面活性剤としては、グリセリン脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、ポリグリセリン脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、プロピレングリコール脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、ソルビタン脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、ソルビトールの脂肪酸エステル及びそのアルキレングリコール付加物、ポリアルキレングリコール脂肪酸エステル、ショ糖脂肪酸エステル、グリセリンアルキルエーテル、ポリオキシアルキレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ラノリンのアルキレングリコール付加物、ポリオキシアルキレン変性シリコン、ポリエーテル変性シリコン等が挙げられる。アニオン界面活性剤としては、ステアリン酸、ラウリン酸のような脂肪酸及びそれらの無機及び有機塩、アルキルベンゼン硫酸酸塩、アルキルスルホン酸塩、 α -オレフィンスルホン酸塩、ジアルキルスルホコハク酸塩、 α -スルホン化脂肪酸塩、アシルメチルタウリン塩、N-メチル-N-アルキルタウリン塩、ポリオキシエチレンアルキルエーテル硫酸塩、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテル硫酸塩、アルキルリン酸塩、ポリオキシエチレンアルキルエーテルリン酸塩、ポリオキシエチレンアルキルフェニルエーテルリン酸塩、N-アシルアミノ酸塩、N-アシル-N-アルキルアミノ酸塩、 α -アルキル置換リンゴ酸塩、アルキルスルホコハク酸塩等が挙げられる。両性界面活性剤としては、アミノ酸タイプやベタインタイプのカルボン酸型、硫酸エステル型、スルホン酸型、リン酸エステル型のものがあり、人体に対して安全とされるものが使用できる。例えば、N, N-ジメチル-N-アルキル-N-カルボキシルメチルアンモニウムベタイン、N, N-ジアルキルアミノアルキレンカルボン酸、N, N, N-トリアルキル-N-スルフォアルキレンアンモニウムベタイン、N, N-ジアルキル-N, N-ビス（ポリオキシエ

チレン硫酸）アンモニウムベタイン、2-アルキル-1-ヒドロキシエチル-1-カルボキシメチルイミダゾリニウムベタイン等が挙げられる。

【0016】紫外線吸収剤としては、例えば、ベンゾフェノン系としては、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸ナトリウム、2, 2'-ジヒドロキシ-4, 4'-ジメトキシベンゾフェノン、2, 2'-ジヒドロキシ-4, 4'-ジメトキシベンゾフェノン-5-スルホン酸ナトリウム、2, 4-ジヒドロキシベンゾフェノン、2, 2', 4, 4'-テトラヒドロキシベンゾフェノン等が挙げられ、PABA系としては、パラアミノ安息香酸、パラアミノ安息香酸エチル、パラアミノ安息香酸グリセリル、パラジメチルアミノ安息香酸アミル、パラジメチルアミノ安息香酸-2-エチルヘキシル、パラジヒドロキシプロピル安息香酸エチル等が挙げられ、ケイ皮酸系としては、p-メトキシケイ皮酸-2-エチルヘキシル、4-メトキシケイ皮酸-2-エトキシエチル等が挙げられ、サリチル酸系としては、サリチル酸-2-エチルヘキシル、サリチル酸フェニル、サリチル酸ホモメンチル等が挙げられ、その他、2-(2-ヒドロキシ-5-メチルフェニル)ベンゾトリアゾール、4-tert-ブチル-4'-メトキシジベンゾイルメタン、オキシベンゾン等が挙げられる。

【0017】保湿剤としては、(c)成分以外のもの、例えばタンパク質、ムコ多糖、コラーゲン、エラスチン、セラチン等が挙げられる。酸化防止剤としては、例えば α -トコフェロール、アスコルビン酸等が挙げられる。美容成分としては、例えばビタミン類、消炎剤、生薬等が挙げられる。防腐剤としては、例えばパラオキシ安息香酸アルキル、フェノキシエタノール等が挙げられる。

【0018】本発明の油性固形化粧料としては、口紅、リップクリーム、ファンデーション、頬紅、アイカラー、眉墨、アイライナー、スキンケア製品、頭髮製品等が挙げられる。

【0019】

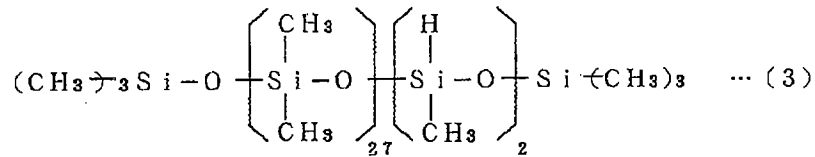
【実施例】以下、実施例により本発明を更に詳細に説明するが、本発明は、これらに限定されるものではない。

【0020】製造例1 部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合物

反応器中に、平均組成式(3)

【0021】

【化1】



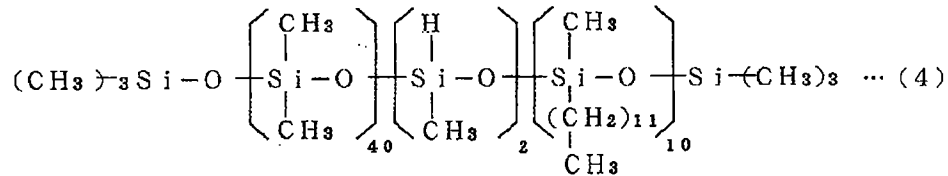
【0022】で示されるオルガノハイドロジェンポリシロキサン100g、エタノール62g、平均組成式が $\text{C}_2\text{H}_2=\text{CHCH}_2\text{O}(\text{C}_2\text{H}_4\text{O})_{10}\text{CH}_2\text{CH}=\text{CH}_2$ で示されるポリオキシアルキレン23.6g及び塩化白金酸3%のエタノール溶液0.3gを仕込み、内温を70～80℃に維持して2時間攪拌した後、減圧下で溶媒を除

去し、粒状の重合物を得た。

【0023】製造例2 部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合物
反応器中に、平均組成式(4)

【0024】

【化2】



【0025】で示されるオルガノハイドロジェンポリシロキサン100g、エタノール62g、平均組成式が $\text{C}_2\text{H}_2=\text{CHCH}_2\text{O}(\text{C}_2\text{H}_4\text{O})_{10}\text{CH}_2\text{CH}=\text{CH}_2$ で示されるポリオキシアルキレン2.6g及び塩化白金酸3%のエタノール溶液0.3gを仕込み、内温を70～80℃に維持して2時間攪拌した後、減圧下で溶媒を除去し、粒状の重合物を得た。

【0026】実施例1～3及び比較例1～3：口紅表1に示す組成の口紅を調製し、使用時の水々しさ、使用中のうおい感の持続及び油性固形化粧料としての使用性について官能評価を行い、油性固形化粧料としての形状保持性を観察した。その結果も併せて表1に示す。

【0027】

【表1】

		(%)					
		実施例			比較例		
成分		1	2	3	1	2	3
1	製造例1の部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合物	0.8	5	8	0.005	11	5
2	ジメチルポリシロキサン(6cSt)	0.7	12	20	0.1	10.8	12
3	ポリエチレンワックス	-	2	2	-	5	1
4	キャンデリラワックス	8	4	-	8	-	-
5	マイクロクリスタリンワックス	8	5	2	10	-	1
6	セレシン	5	5	2	5	10	1
7	ワセリン	15	2	-	15	-	-
8	トリオクタン酸グリセリル	35	25	12	35	-	50
9	トリイソステアリン酸グリセリル	12.9	12.8	4.8	17.895	-	10.9
10	シリコーン化合物処理着色顔料 *1	8	6	4	8	3	4
11	防腐剤	0.1	0.2	0.2	-	0.2	0.1
12	グリセリン	1	3	3	1	10	5
13	1,3-ブチレングリコール	1	3	10	-	10	5
14	精製水	5	15	32	-	40	5
評価							
イ	使用中の水々しさ	◎	◎	◎	×	◎	◎
ロ	しっとり感の持続性	◎	◎	◎	×	○	◎
ハ	油性固形化粧料としての使用性	◎	◎	◎	◎	×	×
ニ	油性固形化粧料としての形状保持性	◎	◎	◎	◎	○	×

【0028】注1：メチルポリシロキサン・メチルハイドロジェンポリシロキサン処理(3.5%)

【0029】(製造方法)

A. 成分(1)、(2)を均一に混合した後、成分(1

1)～(14)を加え、均一に混合する。

B. 成分(3)～(10)加熱溶解後Aを添加し更に均一に混合する。

C. 気密容器に充填成型し、口紅を得る。

【0030】(評価方法)

評価項目：

イ. 使用時の水々しさ

ロ. 使用後のうるおい感の持続

ハ. 油性固形化粧料としての使用性

ニ. 油性固形化粧料としての形状保持性

【0031】評価：各試料について、専門パネル20名による使用テストを行ない、イ～ハについては、5段階評価の平均点に基づいて下記基準で判定した。二については、1カ月間使用後の形状を目視にて観察し、形状が保持されていると評価した人数により判定した。

【0032】評価基準

イ. 水々しい使用感

5点：非常に水々しくひんやり感を感じる

4点：水々しくひんやり感を感じる

3点：水々しさを感じる

2点：わずかに水々しさを感じる

1点：水々しくない

ロ. 使用後のうるおい感の持続

5点：非常にうるおい感の持続を感じ、4時間程度シットリうるおった感じがする。

4点：うるおい感の持続を感じ、2時間程度シットリうるおった感じがする。

3点：うるおい感の持続を感じ、1時間程度シットリうるおった感じがする。

2点：わずかにうるおい感の持続を感じる。

1点：うるおい感の持続は感じない。

ハ. 油性固形化粧料としての使用性

5点：なめらかにのび違和感なく使用できる。

4点：違和感なく使用できる。

3点：使用できる。

2点：違和感はあるが、使用できる。

1点：使用できない。

【0033】判定基準

イ～ハ

◎：4. 0点以上

○：3. 0点以上4. 0点未満

△：2. 0点以上3. 0点未満

×：2. 0点未満

ニ. 油性固形化粧料としての形状保持性(皿からのみ出し、使用中の折れ、変形等の形状の崩れが無く、使用に全く支障がない)

形状が保持されていると評価した人数

◎：20名

○：18～19名

△：15～17名

×：14名以下

【0034】本発明の実施例1～3の油性固形化粧料は、油相中に(a)成分により保持された水性成分が安定に存在し、使用時には、水性成分が塗布部に広がることにより、今までの油性固形化粧料にない水々しさが得られ、表1の結果から明らかなように、比較例1～3に比べ、使用後のうるおい感の持続性、油性固形化粧料としての使用性、形状保持性の全てにおいて優れたものであった。

【0035】実施例4：リップクリーム

(成分) (%)

1. 製造例1の部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合体	4.5
2. ジメチルポリシロキサン(6cSt)	10.5
3. キャンデリラワックス	4
4. セレシン	3
5. ヒマシ油	13
6. ワセリン	10
7. スクワラン	5
8. 防腐剤	0.2
9. プロピレングリコール	7.8
10. 精製水	42

(製造方法)

A. 成分(1)、(2)を均一に混合した後、成分(8)～(10)を加え、均一に混合する。

B. 成分(3)～(7)加熱溶解後Aを添加し更に均一に混合する。

C. 気密容器に充填成型し、リップクリームを得る。
本発明のリップクリームは、使用時の水々しさ、使用後のうるおい感の持続、油性固形化粧料としての使用性、形状保持性の全てにおいて優れたものであった。

【0036】実施例5：ファンデーション

(成分) (%)

1. 製造例2の部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合体	0.5
2. ジメチルポリシロキサン(6cSt)	10
3. トリオクタン酸グリセリル	10
4. セレシンワックス	5
5. マイクロクリスタリンワックス	15
6. 2-エチルヘキサン酸セチル	24
7. セスキオレイン酸ソルビタン	1
8. シリコン化合物処理着色顔料 注1	10
9. フッ素化合物処理 ナイロンパウダー 注2	10
10. フッ素化合物処理タルク 注3	4
11. 防腐剤	0.2
12. ポリエチレングリコール	3
13. 1,3-ブチレングリコール	2
14. クエン酸ソーダ	0.3
15. 精製水	5

注2：パーフルオロポリエーテル処理（5%）

注3：パーフルオロアルキルリン酸エステルジエタノールアミン塩処理（5%）

（製造方法）

A. 成分（1）、（2）を均一に混合した後、成分（11）～（15）を加え、均一に混合する。

B. 成分（3）～（10）加熱溶解後Aを添加し更に均一に混合する。

C. 皿に充填後、気密容器に入れ、ファンデーションを得る。

本発明のファンデーションは、使用時の水々しさ、使用後のうるおい感の持続、油性固形化粧料としての使用性、形状保持性の全てにおいて優れたものであった。

【0037】実施例6：アイカラー&アイブロー

（成分）（%）

1. 製造例1の部分架橋型ポリエーテル変性 オルガノポリシロキサン重合体	3
2. ジメチルポリシロキサン（6cSt）	7
3. キャンデリラワックス	14
4. カルナウバワックス	3
5. セレシン	5
6. トリオクタン酸グリセリル	26.8
7. トリイソステアリン酸グリセリル	10
8. 油剤処理タルク 注4	5
9. チッ化硼素	2

10. 着色顔料	8
11. 防腐剤	0.2
12. グリセリン	3
13. 1, 3-ブチレングリコール	3
14. 精製水	10

注4：スクワラン・マイクロクリスタリンワックス処理（10%）

（製造方法）

A. 成分（1）、（2）を均一に混合した後、成分（11）～（14）を加え、均一に混合する。

B. 成分（3）～（10）加熱溶解後Aを添加し更に均一に混合する。

C. 気密容器に充填成型し、アイカラー&アイブローを得る。

本発明のアイカラー&アイブローは、使用時の水々しさ、使用後のうるおい感の持続、油性固形化粧料としての使用性、形状保持性の全てにおいて優れたものであった。

【0038】

【発明の効果】本発明の油性固形化粧料は、部分架橋型ポリエーテル変性オルガノポリシロキサン重合体に水系成分を保持させ、特定量の油性成分を配合することにより従来にない水々しい使用感と化粧後のうるおい感の持続性に優れ、油性固形化粧料としての使用性、形状保持性も良好なものである。